



親心

夏休みである。「遊びに遊びに遊びに……。」生徒にとって忙しい時期であると推察する。君たちは勉強しなくてはならない時期なのは分かっているが、学校の宿題は八月末までにやれば良いと考えていることだろう。大人は「早く宿題を終わらせてしまいなさい。」と言ってくるが、それができれば君たちは苦労しないわけだ。



ただ、ここで一寸考えてもらいたい。何故いつの時代も大人はこうもやかましく言ってくるのだろうか。

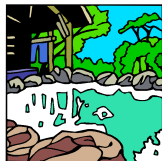
私もそうだが、君たちの親も同じことを子供の時に言われていたのだ。そしてギリギリまでほったらかしに苦勞したことも多いはずだ。子供の時は分からないのだが、社会人として生活するようになると、目の前の楽しいことだけ優先する生活は成り立たないことを経験する。さらに自分の子供に惨めな思いはして欲しくないという本能・情念がある。自分のした失敗をさせないようにならなければならないから、やかましく言うわけだ。親が「宿題を早くやりなさい」「勉強しなさい」と口やかましく言う主な理由はこれだ。このことを知っておくと自分のとるべき行動パターンも見えてくるだろう。怒られないために、①早々に宿題を終わらせる、②何とか誤魔化して逃げようとする、③できるだけ親と顔を合わせないようにする 等々、必死に考える子もいるかもしれない。まあ、だいたい親も同じことを経験しているから、**君たちの行動パターンは必ず見抜かれている**

ということを知っておこう。やらざるを得ないのだから早めにやってしまうことが賢い選択ではないのかな、と私は思う。

子供故に失敗して学ぶことも多いだろう。それはそれでいいと思うが、親はいつの時代も子供のことを必死に考えている。そう知っておくことが親孝行なのかもしれない。

余談だが、私の頑固親父(実父)は相変わらず直接私に話しかけることをしない。「年寄りなんだから素直に頼んでくれればいいんだ。」と思ってしまうのだが、子供に対しては素直になれないらしい。謝ることなんて論外で、私に対して謝ったことなど一度として無い。どうも子供に弱いところは見せられないらしいのだ。これも形を変えた子供を思う親心なのかもしれない。小中学生の頃は父親が悪いのに謝らないことが不愉快だったが、今になって、この親父はそういう生き物だと思えるようになってきた。

更に余談。老夫婦で温泉旅行に行くらしく、老婆心でお勧めの宿を教えようとしたら、親父曰く、



「お前の世話にはならん！」ときた。かわいいもんである。(山崎)

責めるな！攻めろ！

私は、中学二年生の時に、自分の最大の欠点に気づけたかな、と思っています。それは、「自分の感情をコントロールできないこと」です。と、文字にするとなかなか伝わりにくいですが、こんな感じです。

私は、本当に負けず嫌いで、自分のミスが許せない、ちよつと頭の固い中学生でした。テニスも力が入りすぎてミスをするタイプです。ちよつと

中学二年生の冬、なかなか勝てない時期が続いたころ、私はなんとミスするたびにラケットで地面をたたくというくせがついてしまいました。頑張っているのにうまくいかない悔しさと、周りのみんなができていている簡単なことさえできないむなしさといろんな感情が混ざって抑えられなくなつたのだと思います。周りからは「やめなよ、そんなことしても意味ないよ。」と注意されるのですが、自分でも意味ないことなんてわかっていながらも、もう反射になって、やめられなくなっていました。もちろん、こんな状態で勝てるわけもなくボロボロになっていきました。



そんなとき、練習試合によく来ていた、私の市で一番アニスが強い子と友達になりました。彼女は、審判台の下に身長が収まるほど小さく、全く見た目は強そうではありませんでした(笑)。テニスは中学から始め、運動神経もよくないそうです。一度、なぜそんなに強いのかきいたことがありました。すると、「うーん、目の前の一球に集中することかな。ミスしても、終わった一球を責めるより次の一球に全力かけたほうがいいじゃん。」それを聞いて私は、強くなりたいたいなら自分がやっていることは間違っていると気づきました。

ミスにしても「ごめん、次取り返すね。」とペアに明るく一言いうだけにどめ、目の前の一球に集中することを考えました。頭で考えても体はそんなにすぐついてこられませんが、以前より落ち着いて冷静にテニスができるようになり、感情的になにかにぶつかることも少なくなりました。さて、みなさんも勉強していて、努力しているのにうまくいかない、勉強をやり始めたけど結果が出ない、もう投げ出したいけど投げ出す勇気もない！なんてのもやもやした気持ちを抱えること

もあるでしょう。そんな時こそ、まずは目の前の一問に集中してください。やりたくないという感情を周りにぶつけることや、なにかほかの理由をつけられそうなものに逃げることより落ち着いて、冷静に勉強に取り組むことができるようになりますよ。(大久保)

模試とチキンハートと弱点克服②

●先日、高三の英語のあるクラスでこんな質問をした。「今まで限界までがんばった経験があるか？部活でも何でもよい。あれば手を挙げて。」十五人中、五人が手を挙げた。「何にがんばったか？」ときけば、五人とも部活。体力の差、技術の差はあっても、とにかくそれぞれが限界までやつたと自負している。素晴らしいことだ。中学生の中にも、同じ経験をした人は少なからずいるだろう。本当によかったネ。

●さて、上記のクラスを含めて、部活でがんばつたと自負する生徒にまた別の質問をした。「キミが一生存けん命やっているのに、ぶざけている奴がいたらどうする？」「練習に出たり出なかったり奴は？」「下級生で、アドバイスしてもいうことをきかず、自己流を変えない奴は？」

●みんないいことをいつてくれた。「真剣にやらないと勝てないですよ。」「腹立ちますよ。」「練習にこない奴は呼びに行くけど、正直迷惑ですよ。」「やめてほしいですよ。」「結局、本気ではないんですよ。」「部活をなめていますよ。」「……。素晴らしい。全くその通りだ。やっぱ、真剣にやることがある奴は違うね。」

●「試合が終わったらどうする？」「ミーティング

グをしますね。その日の反省とか……。」「試合でダメだったところを話し合って、練習に活かします。」

●いやいや素晴らしい。立派、立派。こんな立派な人が、中学生にも高校生にもたくさんいるはずだ。もう一度いう。立派、立派。

●で、ここからが本題。成績が伸びないとぼやいているキミに。

キミは勉強をなめているんじゃないのか？

●塾にはちゃんと来てるの？宿題はていねいに、分からないところは調べまくって、できなかった所は解き直して、やっているのか？課題は進んでいるの？小テストは満点を狙っているの？テストで×の所は、×になった理由を考えて、二度と間違えないようにしているか？

●少しだけやって、伸びないのはおかしいと思っていないか？計算ミスをして、次からくり返さないよう工夫をしているか？



か？紛らわしい字を書いていないか？毎日やらないと伸びないというのを知っているのか？いわゆる暗記物は一回やったぐらいでは覚えられないことを分かっているのか？

●こうしたことが、キチンとできないとしたら、

キミは勉強をなめている！

●いいかい、成績が伸びないとき、自分は能力がないとか、頭が悪いとか思っていないよ。勿論、全員が開成とか東大とか行けるわけではないが、ほとんどの人が志望校として考えている所は、

それなりに可能性がある学校のはず。部活でやったようなことを、そのまま勉強に適用すれば必ず伸びていける(時々、自分の能力を全く分かっていなくて絶対無理な所を目指す人もいるが……)もう一度いう。キミには能力がないのではなくて考え方がまちがっているだけなのだ。かわいそう。本当にかわいそう。勉強をなめていて、グチをこぼすだけで、自分の能力を出そうとしない。中三も高三もあと半年余りで受験。今の自分ではないなら、このままやれば。自分の人生だもの。

●学ぶことは大事である。その中の一部として勉強は大事である。受験勉強も大事である。何故大事か。私には、この紙面で言い尽くせぬ程、その理由が分かっている。ただ、残念なのは、生徒たちに短い言葉で分かり易く伝える術を私は持たない(これは自分の課題である)。で、申し訳ないが、「大事」である理由は書かぬまま次へいく。

●さて、模試を受ける前の話。とにかく、毎日毎日やるべきことをやる。毎日毎日部活の練習をしたのと同じことだ。その種目を初めてやる新入部員が入ってきたら、最初は何もできない。少しずつ教わって、マネをして、一つ一つ身につけていくしかない。時間はかかる。勉強も同じだ。今までは、キチンとやってこなかったキミは、実は新入部員と同じ。そんなすぐに伸びるはずがない。



がまんしてがまんして続けるのだ。ただし、やり方は大事。ものすごく大事。塾であれば、講師にきいて、ききまくって、正しいやり方に近づいていくのだ。ただ、勉強を本気で始めても、目前にせまった模試で点がとれるとは限らない。点をとれるだけの学力が身に付いていないのだから仕方ない。それでも真剣にうける。(以下次号)

(小林)

勉強に集中できない

ときの解決策

●創学舎は、現在九教場。小中学部が、柏、新柏、新松戸、我孫子、江戸川台。個別が柏、我孫子、布施。大学受験部が、柏駅前一ヶ所。小中高あわせて、かなりの数の生徒が通ってくれている。私自身は、毎週多数の生徒に接していて、充実した時間を過ごさせていただいている。これまで教えてきた生徒は何千人にもなるだろう。有難いことである。

●さて、そういう経験からいうのだが、今まで「やる気のない生徒」は、まず一人もいなかった。それぞれに「やる気」は持っていると思っただけ。ただ、「やる気」の強さの差が、生徒の学習状況を大きく左右しているのだ。勿論、これまでの学習量、家庭環境、現時点での能力など、いろんな要素も影響することは間違いないが、ここでは「やる気」について更に検討する。

●さて、「やる気」はずっとそのままなのか？「やる気」の差はずっと埋まらないのか？否である。「やる気」は育つのである。少し勇気を出して、少し工夫をしていけば、少しずつ強くなっていくのである。そう、キミの「やる気」も、もっと強くなれるのだ。

●では、どうすればいいのか？それは、毎回毎回の勉強を成功させることである。今日一日を、上手く過ごせるようにすることである。その積み重ねが、「やる気」ももっとやろうとキミを変えていくのである。更に、では、毎日の勉強を成功させるにはどうすればいいのか？これもまた、いろいろポイントがあるが、今回は、一つだけに絞って、集中力を話そう。

(小林)

●生徒と話をすると、「やろうと思うのに、集中できない。」という悩みをよく聞く。学校であったイヤなこと、友人とのめめ事、親との口ゲンカなど、不愉快なことが頭の中を支配している。そうでなくとも勉強を一、二時間もすれば疲れて飽きてくる。そんな状態のまま、机に向かっていたりすれば、もう勉強にはもどれない。そして、一日が終わるとき、後悔をする。こんなところだ。

●実は、いくつかが、とっておきの方法がある。集中できないと思ったら、即やめて、五分間体を動かすことである。長すぎてはいけない。具体的にいえば、まず有効なのが「五分間手伝い」。前もって親に頼んでおくのである。「勉強できないとき、五分間だけ手伝いをさせてね。」実は、これには、父母の協力が欠かせないので、この項をお読みの方は、是非配慮していただければ幸いである。次に「シャワー」。冷水と温水を交互に浴びると、もやもやもふつとぶ。そして、三つ目。「五分間散歩」。家の周りを歩くだけでもよい。

●以上、三つ紹介したが、これは、人間の「心と身体」の理屈に、うまく合っているのだ。例えば、転んで足を負傷したとする。その前まで、頭の中でよくよく考えていたことがあっても、「痛い」という感じだけで全身が埋まってしまう。その瞬間、「くよくよ」は消えている。つまり、体への刺激は、一時的な気分完全に勝るのだ。いいかい。集中できないときは、五分間だけに刺激を与える。勿論実行するしないは、きみ次第である。

▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料で送ります。
- ▶在籍していた教室までご連絡ください。

